



志位和夫委員長

自公政権を倒したあと どういう政治にするのか

菅自公政権を倒して、どういう日本をつくるのか——。日本共産党は総選挙に向けて「5つの提案」を訴えます。

日本共産党

- ① 新自由主義から転換し、格差ただし、暮らし・家計応援第一の政治に
- ② 憲法を守り、立憲主義・民主主義・平和主義を回復する
- ③ 覇権主義への従属・屈従外交から抜け出し、自主・自立の平和外交に転換
- ④ 地球規模の環境破壊を止め、自然と共生する経済社会をつくる
- ⑤ ジェンダー平等社会の実現、多様性を大切にし、個人の尊厳を尊重する政治を

政治は動く

ご一緒に声をあげましょう

「声を上げれば政治は動く」。昨年、国民の運動と野党共闘で政治を前に動かしました。

コロナ
対策

運動と共闘の力で

「コロナ対策」では、一人10万円の特別給付金や持続化給付金、家賃支援給付金、学生支援給付金、雇用調整助成金（休業手当の一部を助成）のコロナ特例などを実現。

35人
学級

みんなで扉こじ開けた

公立小学校の1学級の人数を25年度までに35人以下に引き下げることが決まりました。一律引き下げは40年ぶり。みんなで作くり出した貴重な成果です。

菅政権退場 “待ったなし”



安倍前政権を上回る危険性——菅政権をこれ以上続けさせる訳にはいきません。

強権 学術会議に人事介入

異論排除は安倍・菅政権の特徴ですが、その矛先が科学者に——学術会議への人事介入。理由を示さないままの任命拒否は学問の自由の侵害だけでなく、社会全体を委縮させます。すべての国民の大問題です。

冷酷 自己責任おしつけ

「まずは自分でやってみろ」——「自助」を押し付ける菅首相。コロナ危機の下で75歳以上の医療費を2割に引き上げることを決め、「中小企業数を半分以下に」という人物をブレーンにすえる冷酷な政治です。

答弁不能 ペーパー棒読み

国民に対して説明する意思も能力もなく、自分の言葉で国民に語るができない。差し出されたペーパーを棒読みするだけの国会答弁は、首相としての能力と資格に欠けます。学術会議にはデマ攻撃まで。